

令和3年度事業報告書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

令和4年6月9日

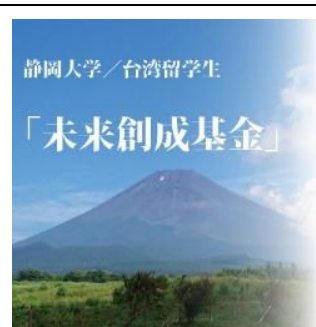
一般財団法人鎌倉フェローシップ(静岡県)

代表理事 鎌倉 淳爾

1. 県内大学の奨学金基金等に対する助成(継続事業)

当財団は「継続事業」として、2014年より国立大学法人静岡大学に在籍する大学生及び大学院生に対し、学習支援を図る趣旨から奨学金給付を行ってきたが、令和3年度についても、同大学に在籍する大学生及び大学院生に対し、年額36万円の奨学金の助成を同大学の「未来創成基金」に対して実施した。

奨学金の主な用途は、静岡大学への交換留学生等への奨学金給付であり、給付を受けた学生の出身地・大学及び学部は下記の通りである。静岡大学「未来創成基金」に対する助成は、当財団の継続事業として8年余に渡って実施され、20名余の学生に奨学金給付を行い、役割を果たし、一定の成果を挙げることができた。



～国立大学法人静岡大学の基金に対する助成の目的と用途～

- ・台湾から静岡大学への交換留学生、DDP生*支援
- ・国立政治大学、開南大学および開南大学大学院、国立台北科技大学、国立中央大学 他
- ・法学科、言語文化学科、経済学科、人文社会科学研究科比較地域文化専攻、社会学科、総合科学技術研究科工学専攻 他

*Double Degree Program(複学位制度)

2. 「琉球大学・鎌倉フェローシップ・K奨学金」の正式発足

当財団は、令和2年度に沖縄県法人である(一財)鎌倉フェローシップ及び(公財)パブリックリソース財団の基金の協力を得て、国立大学法人琉球大学において「K奨学金」を創設し、コロナ禍で困窮する琉球大学の学生及び大学院生15名に18万円を支給した。また当財団は、同奨学金設置を受け、令和3年度に琉球大学と共同で、個人の寄附株式の配当を原資とする「琉球大学・鎌倉フェローシップ・K奨学金」を正式に発足させた。





昨年10月、同奨学金の第一回目の助成の実施のため、琉球大学から教員2名、当財団から弁護士1名を推薦(プロボノ派遣)して選考委員会を設置し、書類及び面談により大学生及び大学院生4名を給付対象に決定し、給付を完了した。

 <p>～K 奨学金の軌跡～</p>	<p style="text-align: center;">琉球新報</p> <p style="text-align: center;">令和3年(2021年)11月26日(金曜日) 琉球新報 朝刊</p> <p style="text-align: center;">法科大学院志望 4学生に奨学金 琉球・鎌倉フェローシ ップ</p> <p>琉球法科大学院への進学を希望している学生の支援などを目的とした「琉球大学・鎌倉フェローシ ップ・K奨学金」の贈呈式が10月28日、西原町の同大学院で開かれた。写真、学部や法科大学院所属の4人の学生が奨学金を受け取った。琉球法科大学院は2004年から、県内学生への給付型奨学金事業を運営する「一般財団法人鎌倉フェローシ ップ」から奨学金を受</p>  <p>けている。「K奨学金」と「鎌倉フェローシ ップ」と琉球大が共同で今年正式に創設したもので、個人から大学へ寄付された非営利株式の配当を原資とする全額でも珍しい制度。今回の4人には、3人に8万円、1人に12万円の給付型奨学金が贈られた。</p> <p>贈呈を受けた琉球大人文社学部4年の宮里幸志さん(21)は存続土を視野に司法試験合格を目指す。さらに勉学に励み、県民の役に立ちたい」と話した。</p>
<p><令和2年度></p> <ul style="list-style-type: none"> 協力:(一財)鎌倉フェローシップ/(公財)パブリックリソース財団 目的:コロナ緊急学生支援「K 奨学金」 実績:年額18万円を15名に支給 	
<p><令和3年度></p> <ul style="list-style-type: none"> 協力:国立大学法人琉球大学 目的:学生支援 実績:選考委員1名派遣「琉球大学・鎌倉フェローシップ・K 奨学金」に名称変更し、正式に発足 	
<p><令和4年度></p> <ul style="list-style-type: none"> 協力:国立大学法人琉球大学 目的:学生支援 実績:特定寄付事業の新規追加により、年額36万円を K 奨学金に対し助成 	

3. その他の奨学金基金等に対する助成(奨学金給付)に係る変更認可申請

当財団は学生支援により、長期的な子どもの貧困及びジェンダー不平等の解決への寄与を目指しており、代表理事が兼任している「沖縄ロースクール奨学金」を実施する沖縄県の(一財)鎌倉フェローシップによる琉球大学への学生支援をモデルに、従来、静岡大学への助成活動を行い、かつ、相互の協力強化に努めてきた。それらの努力は、令和2年度の「K 奨学金」や、令和3年度の「琉球大学・鎌倉フェローシップ・K 奨学金」の発足等の実績に結実している。

沖縄県の学生支援は、統計上の子供の貧困率の高さ及び大学進学率の低さ並びに奨学金申請者の実情に鑑み、緊急性かつ重要性が非常に高いと思われ、とりわけ、沖縄県内の進学者が多く、同県唯一の法科大学院が設置されている琉球大学への助成は、将来、地元で地域課題の解決に資する人材育成に繋がり、当財団の事業目的により合致する。そこで、財源の配分上、既に一定の成果を挙げた静岡大学への助成は廃止し、琉球大学に対する特定寄附の新規事業追加が妥当と判断し、令和4年4月1日を変更予定年月日とする変更認可申請を行い、令和3年2月28日付で静岡県知事の認可を得た。

<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> 		 <p style="text-align: center;">COPY</p>	 <p style="text-align: center;">COPY</p>
---	---	---	---

4. 基本方針に関わるその他の事業

当財団は社会有用の人材育英に寄与することを目的とし、奨学金の他、情報発信、講演活動、出版活動等にも努めてきた。新型コロナ感染拡大防止のため、令和3年度は、オンラインでの活動も強化し、出版物をオンラインで購入できるようにウェブのクレジットカード決済機能等を導入した。

当財団は、奨学生、教育機関、潜在的支援者となる企業を繋ぐ媒体として、産業分野における先端技術の紹介と解説を行う『リーダーズ・ダイジェスト』を月2回配信しており、令和3年度は No.165 まで配信を完了した。定期刊行物については、令和4年度以降も当財団の目的にそった内容や配信先を考え、新規追加も視野に入れていく。






画像は、数千年の歴史を持つ中国の少数民族羌族の詩人雷子が著した詩集「雪灼」を、2010年に当財団が翻訳出版した作品。本書及び解説が、2011年の中国共産党汶川県委員会、汶川県人民政府、災害後復建“7個1工程”文学芸術精品賞を受賞した。昨今のDX化を受け、当財団サイト <https://www.kff.fund> でも各種のクレジットカードにより購入できるようになった。

5. 褒賞関係

当財団が、学生支援のための基金創設及び奨学金制度の発足に貢献し、一定の功績があったとして、令和3年12月6日に国立大学法人琉球大学において、代表理事が琉球大学長から感謝状を受け取った。

また、当財団からの褒賞として、当財団の奨学金設立や奨学生選考において、長年多大な功績があった沖縄県のとうま法律事務所の眞正姫弁護士に対し、感謝状等の贈呈を行った。

<p>お知らせ 2021年12月15日</p> <h3>一般財団法人鎌倉フェロシップへ感謝状を贈呈しました</h3> <p>令和3年12月6日（月）、学長室にて、一般財団法人鎌倉フェロシップへ感謝状贈呈式が行われました。式典では一般財団法人鎌倉フェロシップ代表理事 鎌倉洋貴様から今後の本学の教育研究へのご支援の基調について述べられ、西田隆学長より感謝の言葉を述べられました。</p> <p>その後、現在のオンライン授業の取組や学生支援について懇話及び意見の交換が行われました。</p> <p>いただいたご寄附については、奨学金支給の原資として活用し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により厳しい経済状況におかれた学生の負担を軽減し、法曹への道を継続して参るよう支援しています。</p>  <p>贈呈式出席者での記念撮影（中央：鎌倉洋貴様、中央右：西田隆学長）</p>	 
--	---

以上